

八女茶山唄 作詞・作曲=不詳

ハアヤーレー 縁がないなら 茶山にござれ
 (トコサイサイ)

ハアヤーレー 茶摘みやしまゆる
 じょうもんさんな帰る
 (トコサイサイ)

あとに残るはてば円座
 (ハア採まじやれ採まじやれトコサイサイ)

ハアヤーレー 今年やこれきりまた来年の
 (トコサイサイ)

八十八夜のお茶で会おう
 (ハア採まじやれ採まじやれトコサイサイ)

ハアヤーレー 茶山戻りにや 皆菅の笠
 (トコサイサイ)

どっちが姉やら 妹やら
 (ハア採まじやれ採まじやれトコサイサイ)

ハアヤーレー お茶を飲むたび
 わしや思い出す
 (トコサイサイ)

茶山で結んだ縁じゃもの
 (ハア採まじやれ採まじやれトコサイサイ)

八女茶山おどりについて

八女茶山唄は江戸時代の末期ごろから唄われているとされ、この地域に住まう方たちの口から口へと唄い継がれてきました。主にお茶を製造する際の茶葉を採み込む作業で唄われていましたが、それが機械化された今では、手で茶葉を採む機会はほとんどなくなりました。「八女茶山唄日本一大会」など唄を披露する機会はありますが、日ごろに八女茶山唄を唄ったり聴いたりすることは少なくなってきたのかなと思います。唄もそうですが、お茶を採むことも、この地域を育ててきた文化のひとつです。そこには多くの方たちの想いが重ねられてきています。

この土地で生きていく人たちにどんな想いを継いでいつて欲しいか、そうしたひとつひとつのお話から、八女茶山唄の節に合わせた踊りの振りを考えていきました。

馬場さんから「茶山唄は恋の唄」という話がありました。この踊りから恋が生まれたら嬉しいことだなと思うのですが、恋に限らず、この踊りをきっかけに、こうして出会えたことも「縁」です。みなさんのさまざまな想いを踊りに重ねていってもらい、未来へも繋いでいきたいと思っています。そうした願いを込めて振り付けました。



八女茶山おどり 振付
 演出家・民俗芸能アーカイバー
武田 力

俳優として欧米を中心に活動後、演出家に。過疎化した滋賀県内のある集落に古くから続く踊りの復活／継承に関わるなど、この社会をみんなと一緒に軽やかに考えてみる活動を展開する。

元祖 八女茶山踊り

2019年に武田さんと国際ボランティアによって「八女茶山おどり」を創作した後、実は、すでに「八女茶山踊り」が存在していたことを知りました。元祖「八女茶山踊り」、今回創作された「八女茶山おどり」のどちらにもその歴史や願いが込められており、いつか両方を楽しむ機会を作りたいと思います。元祖「八女茶山踊り」を踊られていた黒木文化連盟の下川さんに当時の話を聞きました。

元祖「八女茶山踊り」は、60年程前に八女茶の宣伝のために始まったんです。当時はボランティアで集まったみんなで、県内あちこちに一週間くらい泊まり込みで行き、テパートなどで茶摘み娘の衣装を着て八女茶を宣伝していて、そこで踊っていました。盛んな時には地区の運動会で踊っていたし、「国民文化祭」に出演したこともあります。愛媛と三重で開催されたときに、20名くらいで踊りに行ったんですよ。

「採まじやれ」のところはお茶を採んでいるように踊ったりと、武田さんの振り付けと似ているところもありますね。

近年はお茶の宣伝に行くこともなくなり、踊りも途絶えていました。一時期、10年程前に黒木小学校の授業で踊りを教えることになり、学習発表会で披露されたこともありましたが、ここ数年は児童が少なくなった影響などで、小学校で踊る機会もなくなっていたんです。またこうして、新しいかたちで茶山おどりが盛り上がるのは嬉しいですね。

振り付けは歌詞に合わせた簡単なもので、茶摘み衣装のタスキをつかんだり、段々畑を表すような振りがあったり。

黒木文化連盟 下川 弘江

みんな一緒に、もまじやれ～もまじやれ～トコサイサイ～
 美しく豊かな農山村の風景は、これらの唄やおどりにあるような農的な暮らしや人々の交流によって育てられてきたのだと思います。農作業や山仕事に精を出しながら、唄って踊って八女茶を楽しむといった暮らしや文化が受け継がれていく事を期待し、今回のパンフレットと解説動画を制作しました。ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。



こめづくり もりづくり ひとづくり
山村塾

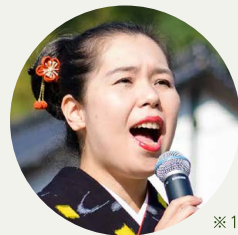
問い合わせ先: 特定非営利活動法人山村塾
 〒834-1222 福岡県八女市黒木町笠原9836-1 TEL・FAX…0943-42-4300 WEB…<https://sansonjuku.com>
 発行: 特定非営利活動法人山村塾
 協力: 九州大学大学院芸術工学研究院附属ソーシャルアートラボ、小規模多機能ホーム よかよか、NPO法人日本国際ワークキャンプセンター (NICE)、大村政之 (クルール)、木下貴子 (CXB)
 デザイン: 田中里佳 写真: 富永亜紀子 (※1～※4)
 このパンフレットは、「令和2年度市民との協働によるまちづくり提案事業 (八女市)」の助成を受けて製作されました。

茶山唄の解説

「八女茶山唄」は、八女に伝わる民謡です。

民謡や唄というものは、最初からこの節ができたわけではなく、元は、その山や作業しているところで叫んでいたものが、唄の始まりと言われています。

「もうすぐお昼よー」とか、「もう帰ろうー」とか、作業しながら色々喋りますが、田んぼや茶畑というのは広いところなので、小さな声で喋っていても聞こえません。なので、遠くにいる人同士、もしかしたらひと山向こうの人にもわかるように喋っていた言葉が、だんだん大声になり、叫んでいたものにだんだんと節がついていったと言われています。



※1

毎年、6月の第1日曜日に「八女茶山唄日本一大会」を開催しています。ぜひご参加ください！

八女茶山唄 解説・唄い手
 八女市観光大使、民謡アンバサダー
馬場 美雅

「縁がないなら茶山にござれ」
 縁があるんですよと呼びかけています。

「縁」とはとうやら女性とのご縁のよう。みんな「菅の笠(藁で編んだ笠)」をかぶっているの、どちらがお姉ちゃんか妹かわからないよね、ということですよ。

「お茶を飲むたび わしや思い出す」
 「茶山で結んだ縁じゃもの」
 おそらく、この茶山で出会った二人が結婚して…ということになったんでしょう。

四番の歌詞では現実に戻ります。
 お茶摘みが「しまゆる(終わってしまった)」ので、茶摘みに来ていた「じょうもんさん(娘さんたち)」がみな帰ってしまった、あとには、摘んだ茶葉を入れる「ては(竹かご)」と休憩の時に座る「円座」だけになってしまった、もの寂しい情景を描いています。

今年が終わってしまったけど、来年のお茶摘みの時にまた会おうと呼びかけます。



♪ハアー



両手を胸の前で合わせます。

♪ヤーレー



首と膝を軽く曲げて手招き。それを3度繰り返します。

♪縁が



右足から一步踏み出して、右手は目の高さ、左手は腰の後ろへ。

♪ないなら



今度は左足から踏み出して、茶山を探します。

♪茶山にござれ



右手右足を前に出して、目の前のパートナーの頬付近へ手のひらを添えます。でもお触りは禁止!

5でパートナーの頬付近にある手のひらはそのままに、一緒に時計回りで半周回ります。回り終わりで「トコサイサイ」と声を掛け合ひましょう。



♪茶山～



その後、左足を引いて、左手を上、右手を下にして、半円を描きます。

♪茶どころ～



次は右足を引き、右手を上、左手を下にして半月を描きます。

内側と外側、二重の円になって踊ります。



みんなで踊ろう!

『ハ女茶山おどり』振り付け by 武田 力

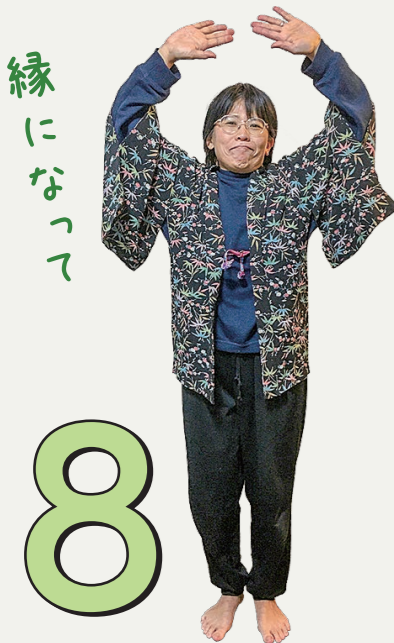
円の外側と内側の人で向き合って踊りましょう

踊り方解説動画(YouTube)



日本語版 English Ver.

♪え～



両足を揃えて、両手を上へ。円／縁を作ります。

♪ん



8よりさらに大きな円／縁を描いて、満月に。そして、その満月を見上げてください。

♪どころ



茶葉を焦がさぬよう混ぜ合わせる「釜炒り」の動きのように、頭上にあつた縁を結びます。

♪ハア揉ましゃれ揉ましゃれ



「モマジャレ モマジャレ」と声を掛け合いながら茶葉を揉み合わせる「茶揉み」の動きを2度します。

♪トコーサイ



「トコサイ」と声を掛け合い、下からお茶をすくい上げて飲むように顔を覆います。

♪サイー

「サイ」と言いながら、12で覆った手を広げて、対面するパートナーに笑顔を見せてあげてください!

13

